

南三陸町庁舎一復興期のシンボルとしての庁舎 (1)

現在南三陸町は震災からの復興期が終わり、高台への住居建設が始まっています。既存の地域コミュニティを維持しつつ、新しい街並の形成が始まる復興期にあります。同時に新たなコミュニティの絆を築き、町民全体による協働まちづくりを進める発展期の始動年にも当たります。本プロジェクトは発展期の中心的施設であり、新しいコミュニティ形成の核となる施設です。

庁舎には、町民の居場所を設け町民と共に創るまちづくりの拠点とします。

庁舎は、1階を開放的な構成とし町民の活動を街に向けて視覚化します。

庁舎は、自然素材を用いた大きな家のような場とします。

庁舎は、免震構造で安心安全を確保し、自由度の高いサスティナブルな建築とします。

■町民と共に創るまちづくりの拠点となる庁舎

南三陸町は本格的な新しいまちづくりが始まったばかりです。同時に日本の社会は、人口の減少により縮小化の傾向にあります。そうした復興期のまちづくりは、限られた予算を有効に活用し、本当に必要なものだけを創っていくことが重要です。町民、議会・行政が協働してそれを考え創り出していく、町民や来街者が日常的に集まり交流できる緑側空間を持つ町のリビング、広場と一体利用可能な多目的ホール、光と風のテラスを持つ落ち着いた2階執務空間、自由に使える会議室等の空間を設け、庁舎をまちづくりの拠点として整備します。

■都市的賑わいを創り出す道路に沿ったリニアな庁舎

庁舎の敷地は、アリーナ、BRT発着所、現在建設中の公立志津川病院、総合ケアセンター、災害復興住宅等が集積する場所です。敷地西側道路はメインアクセスであり、西南の交差点は集積する施設の中心の場となります。そのため、駐車場を敷地東側、北側に配置、庁舎は交差点にメインエントランスを設け西側道路に沿ってリニアに配置し、道路に沿って開いた構成とします。そうすることで町民の活動が街に表出し、賑わいのあるファサードと都市的な街並みを創り出します。

■心地良さに包まれた大きな家のような庁舎

町民や外来者が集い活動する場である庁舎は、光と風を十分に採り入れ、木(杉)、塗り壁(牡蠣殻漆喰等)、和紙、石、土などの再生利用可能な環境素材を積極的に利用し、自宅のような心地良さに包まれた空間とします。1階の町のリビングは外部と連続した土間のような空間とし様々な活動に対応可能なフレキシビリティの高い場所とします。

■安心安全で使い続けられる庁舎 -ユーザー参加型プロセスによる設計

これからの庁舎は様々な変化に対応可能な建築であるべきです。純ラーメンのRC造+免震構造を基本とした耐久性・耐震性に優れたスケルトンと用途の変更に対応可能なインフィルのシステムを持つ100年建築を創ります。

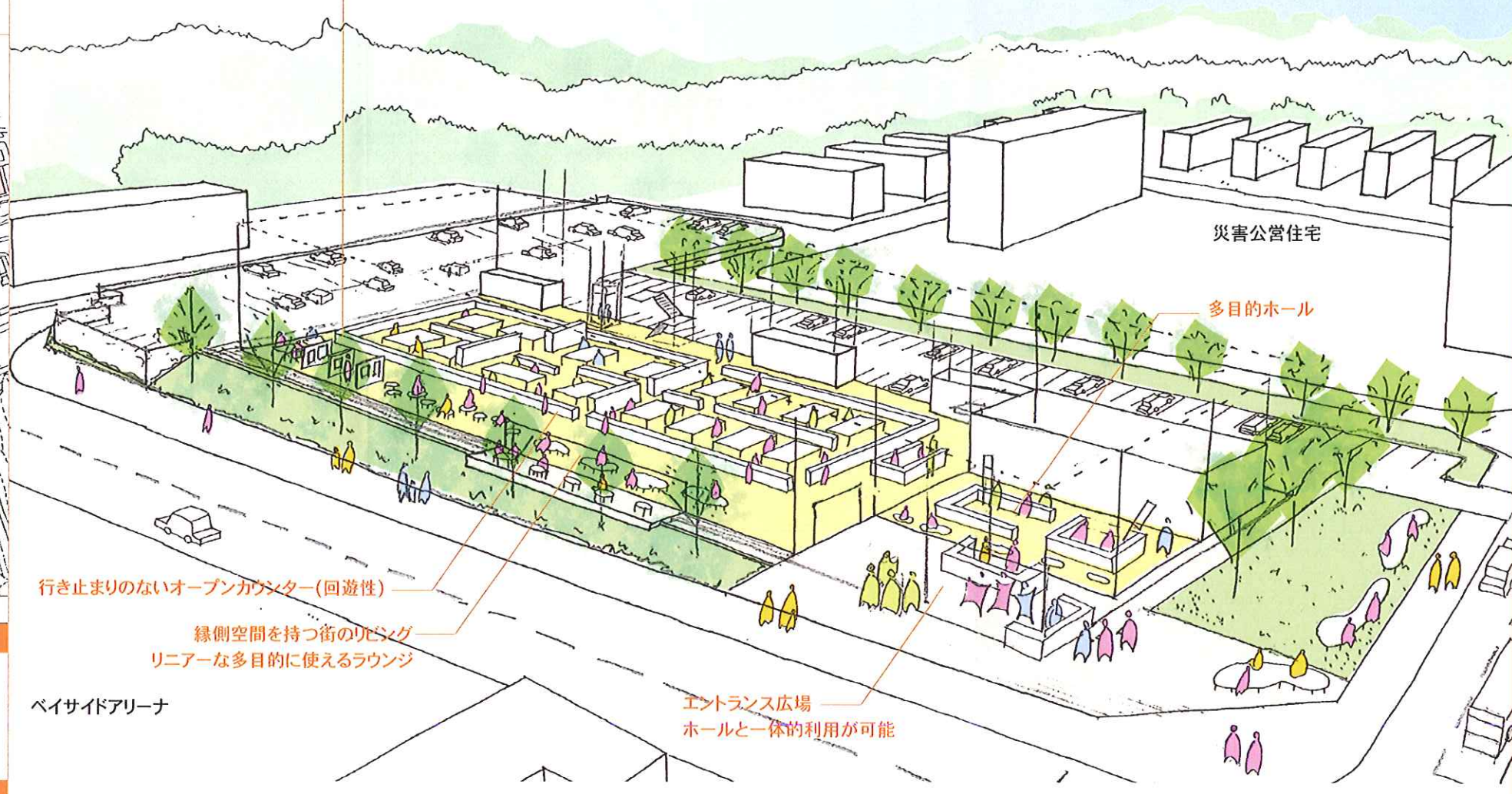
また、町民が愛着を持つことが、建物を末永く使い続けられる秘訣です。町民参加のワークショップ(使い方、機能配置、仕上げ、設備、管理、スタンドグラス制作など)やヒヤリング、発注者との定例会議による詰めと確認を行うことで、様々な意見をくみ上げ、計画や運営に反映します。そうすることで、町民はまちと庁舎に愛着を持ち、町民と共に進化する使い続けられる庁舎を実現します。

長く生き続けられる建築こそが、その変わらぬ存在感により町の景観を継承し続けます。

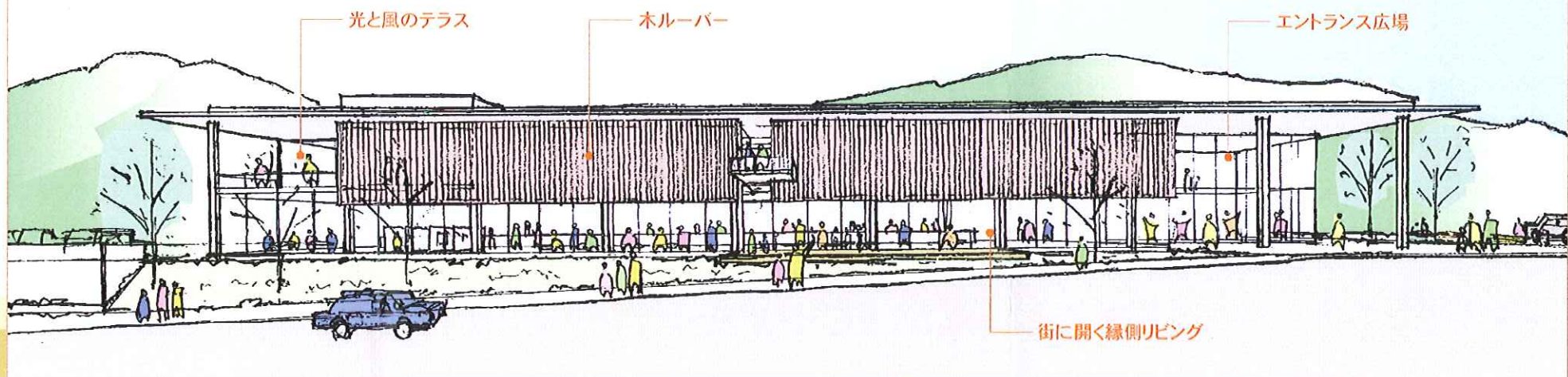
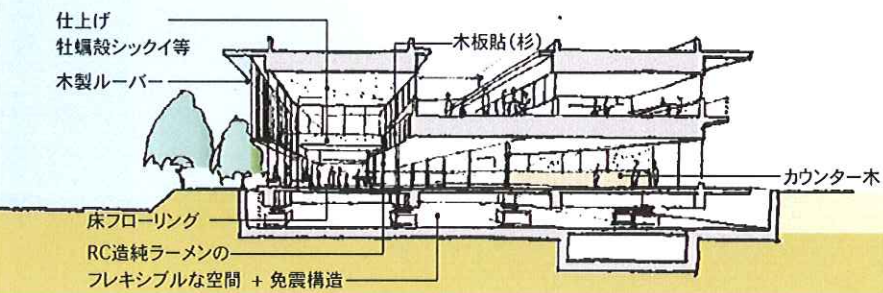
開放的で気軽に立ち寄れる大きな家の街のリビング



街並にうらおいを与える並木
西日のカットにも役立つ

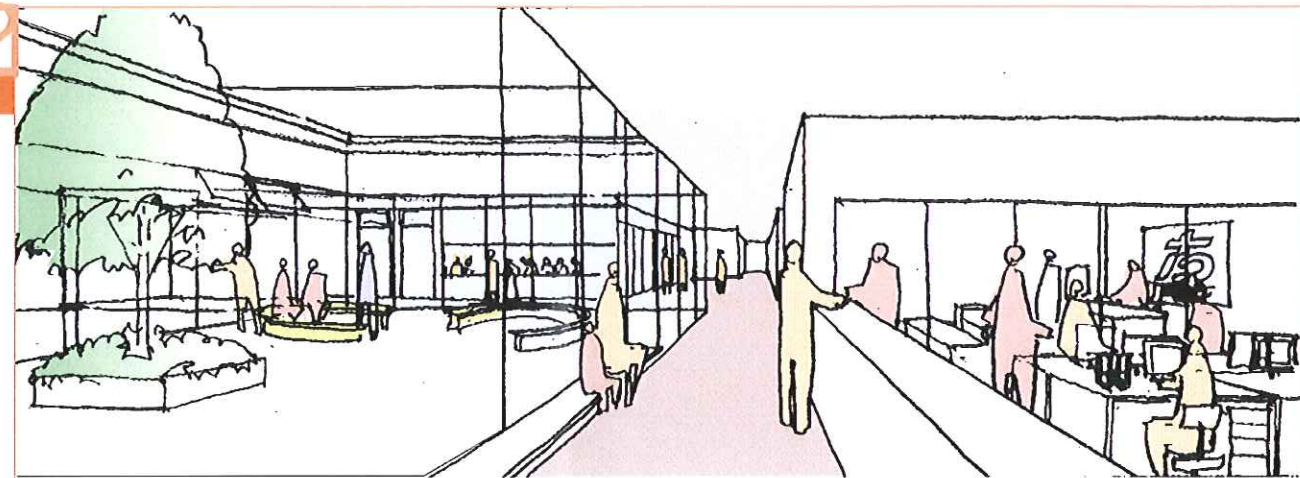
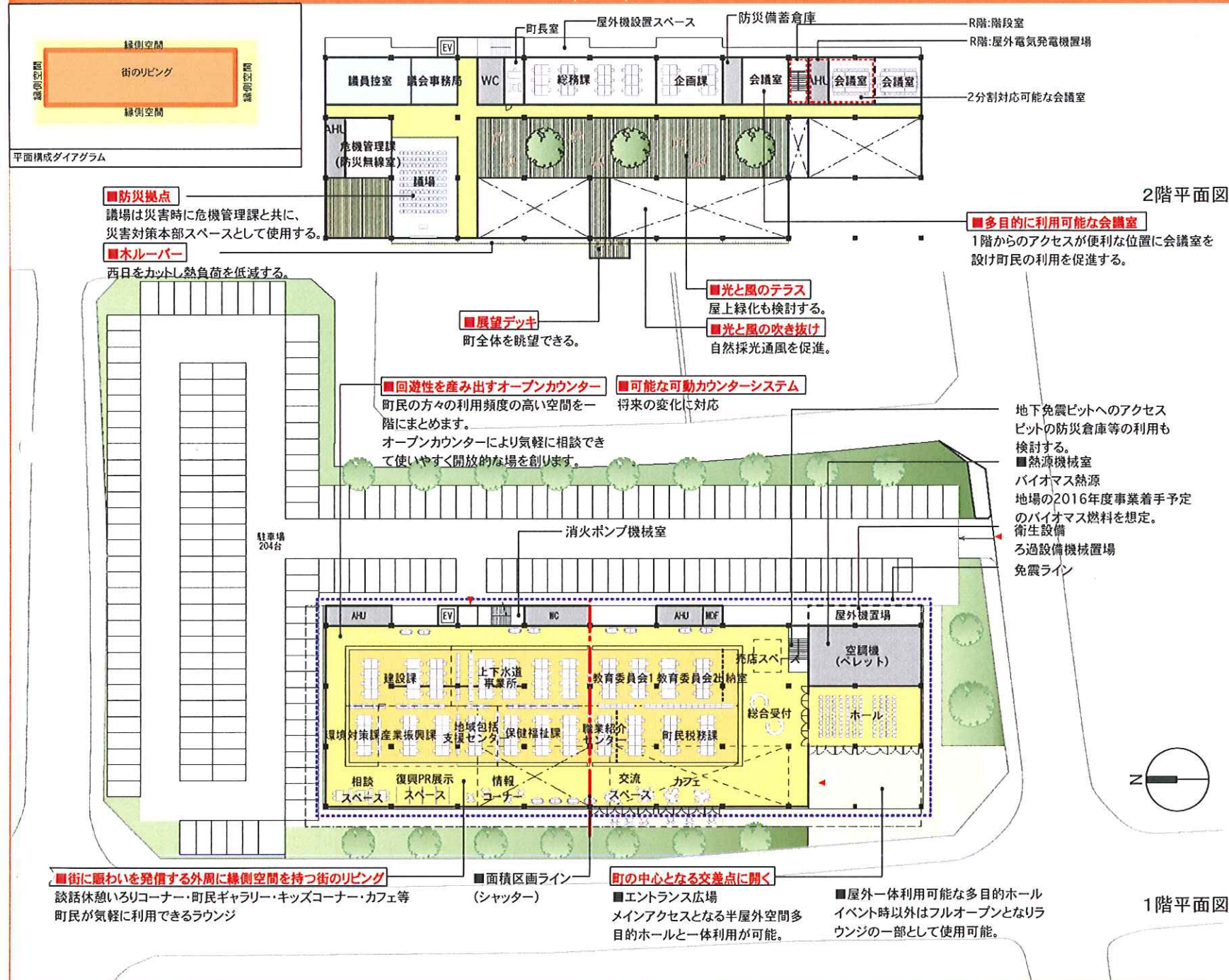


街に活動が滲み出し賑わいのある街並をつくる



南三陸町庁舎—復興期のシンボルとしての庁舎 (2)

■環境に配慮した誰もが気軽に立ち寄りたくなる庁舎-縁側(外周)を町民の居場所とした平面構成



2階 光と風のテラスから明るい執務室を望む



街に賑わいを発信する外周に縁側空間を持つ街のリビング

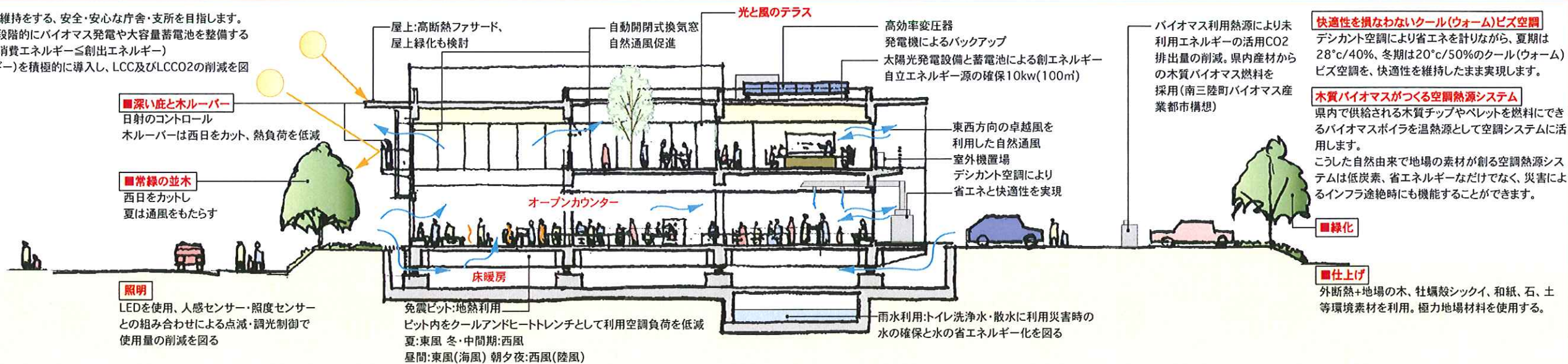
■地域の創造的復興を先導し、環境共生と自立の拠点となる庁舎

- 優れた環境性能でライフサイクルコスト低減と災害時機能維持をする、安全・安心な庁舎・支所を目指します。
- 地域の創造的復興(バイオマス産業都市)の成長と共に、段階的にバイオマス発電や大容量蓄電池を整備する事で、将来的なゼロ・エネルギー庁舎(ZEB)を目指します。(消費エネルギー≦創出エネルギー)
- 再生可能エネルギー(光、風、緑、水、地熱、自然エネルギー)を積極的に導入し、LCC及びLCCO2の削減を図ります。

環境設備計画
南三陸町や周辺地域の持つポテンシャルを最大限に活用する事で高い省エネ性能や環境性能の実現のみならず、快適性の向上や災害時の機能自立にも寄与する地域のニーズに適した骨太の環境設備計画を実現します。

■光と風を捕える南北方向に長い庁舎形状

自然換気に適した快適な機構が長い南三陸の特徴を生かし中間期に流れる東西方向の風(海陸風)を取り入れ、効率的な自然換気を実現します。また、過度に奥行きを抑えられた執務空間には東西両面から安定した間接光を全体に取り入れることができ、タスクアンビエント照明と合わせ大幅な省エネを実現します。災害時にもエネルギーをほとんど使わずに自立して室内環境を適度に整えることができます。



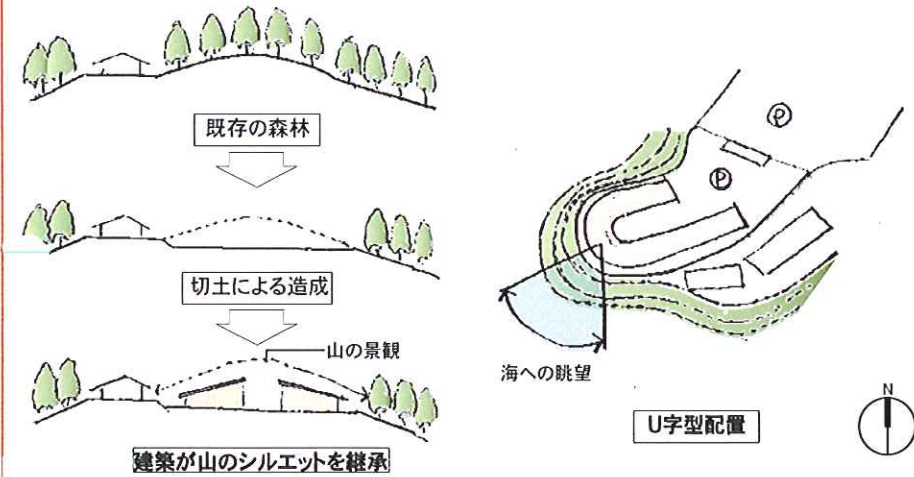
総合支所 街の復興期のシンボルとしての総合支所

3

総合支所は町民と共に創るまちづくりの拠点とします。
 総合支所は敷地の環境・風景を継承します。
 総合支所は心地良さに包まれた大きな家のリビングのような場とします。
 総合支所は安心安全で、将来の変化に対応可能なサステナブルな建築とします。

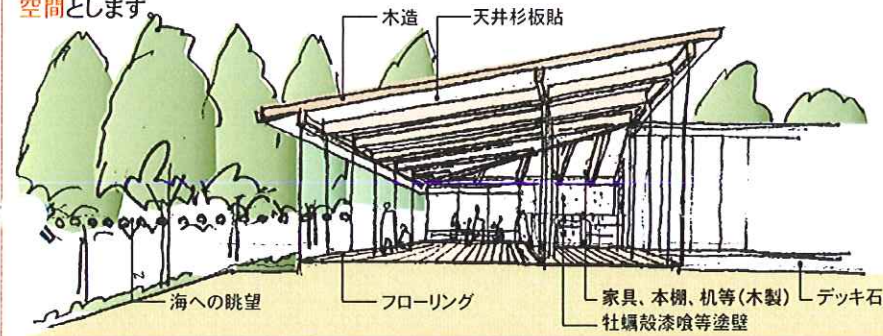
眺望を生かして敷地形状に溶け込む総合支所

敷地は山の頂部を切り土してできた地形で、南に海が見える眺望の良い場所です。仮設住宅の駐車場に連続し北側に駐車場を設けます。総合支所は西側の敷地に沿ってU字型に配置、一体感のある木屋根とし山のシルエットを継承します。西と南に面するU字の曲線部に町民の居場所を配置、眺望を生かした開放的な空間とします。



心地良さに包まれた大きな家のリビングのような総合支所

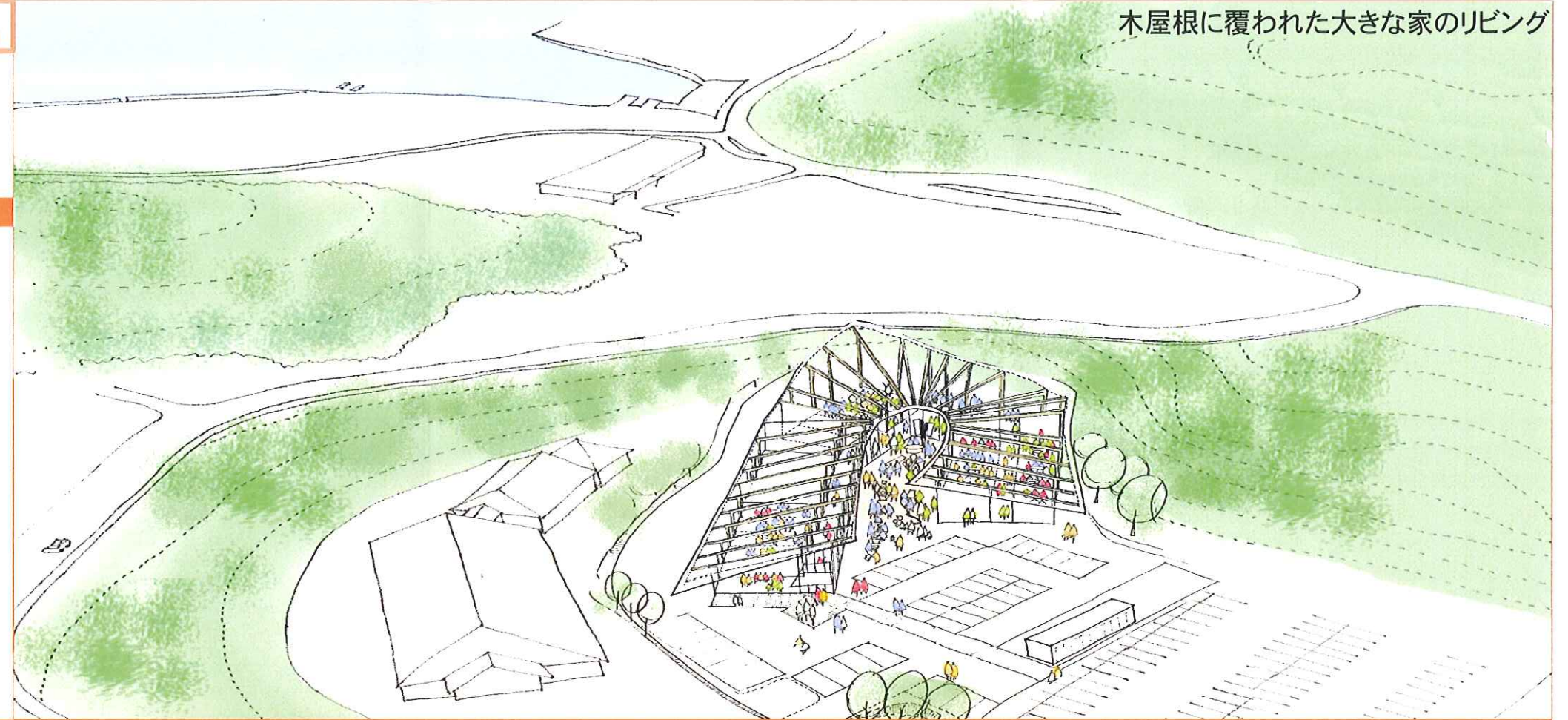
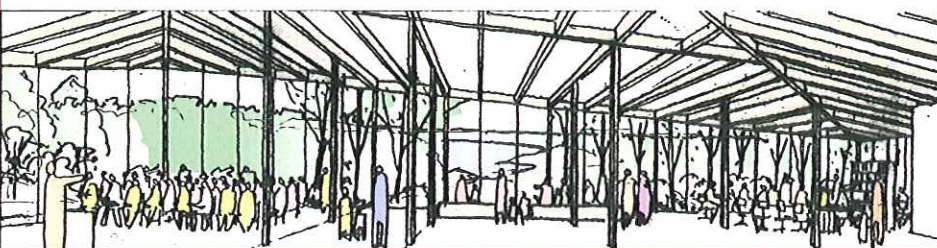
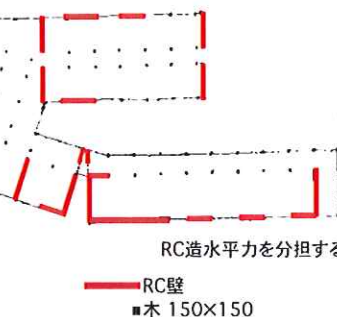
地場産の杉を使った平屋建ての木造とします。それに加えて光と風を十分に採り入れ、木(杉)、塗り壁(牡蠣殻漆喰等)、和紙、石、土などの再生利用可能な環境素材を積極的に利用し、自宅のような心地よさに包まれた、誰もが気軽に立ち寄りたくなるような居心地の良い空間とします。



安心安全で使い続けられる総合支所

これからの庁舎は様々な変化に対応可能な建築であるべきです。耐震壁をRC造とし水平力に対抗、木の柱は軸力だけを受ける構造とし壁の少ないフレキシビリティの高い空間としました。屋根は木梁を長編方向に900ピッチで並行配列し、一体感のある木屋根構成とします。U字曲線部は眺望を確保するため海に向かって持ち上げ緩やかに起伏を付ける事でHPシエルの効果を期待しています。木造+RC造の耐久性・耐震性に優れたスケルトンと、用途の変更に対応可能なインフィルのシステムを持つ暖かみがあり愛される100年建築を創ります。

壁のないフレキシブルな空間



誰もが気軽に行きたくなる様な居心地のよい居場所

